

北里大学病院小児科医師石田倫也が飲酒運転、人身事故を起こした事件は、警察発表では前夜自宅での飲酒が原因とされているが、これは事実ではない。事実は、平成26年10月30日（木）夜行われた石井正浩教授以下全員参加の小児科医局会において深酒したためである。

酩酊状態に陥った石田のマイカー帰宅を、参加者の誰一人として止めなかった。そのため、泥酔運転による帰宅途上で運転不能となり道路上に止まってしまった車内で眠り込み、事件は起きたのである。

石田は警察署での取り調べで事実を隠して嘘を述べた。石田の供述の裏を取らなかった警察の対応も非難されねばならない。

実は、本学医師の間で飲酒運転は半ば当たり前となっているのが実態であり、上層部もそれを察知していながら見て見ぬ振りをしているのである。

以下、報道より

北里大学病院の小児科の医師、石田倫也容疑者（33歳）が、神奈川県相模原市の路上で酒気帯び運転をしたとして警察が10月31日未明に逮捕した。医者が飲酒運転事件を起こすとは思っても見ない。

逮捕容疑は10月31日午前4時半すぎ、神奈川県相模原市の路上で二日酔いの状態で乗用車を運転した疑い。石田容疑者は出勤途中で路上の真ん中に車を停めて寝てしまっていたところ、様子を見に来た男性2人を急発進してはねて軽傷を負わせた。そのあと、タクシーと軽乗用車に追突した。

呼気からは1リットルあたり0.3ミリグラムのアルコールが検出されているということで、石田容疑者は「前日、自宅で缶ビールを5、6本飲んだ」などと容疑を認めている。警察は人に怪我を負わせた過失運転傷害の疑いでも捜査している。

この事件に関し、11月21日（金）開催の学校法人理事会では、海野信也大学病院長（理事）が事実（前夜自宅での飲酒ではなく医局会における深酒が真実であること）を報告し、大学病院の信用問題と執行部の責任問題に発展することを回避するため、現状の報道を事実として通したい旨要請があった。これに対して、教育・医療機関の良心と真実が露呈したときのダメージを念頭に、報道を訂正して事実を公表すべきとの意見が大勢を占め議論は紛糾した。そして赤星透常任理事（大学病院医師）が議論を強引に制し、虚偽を事実として押し通すよう藤井清隆理事長に迫り、北里英郎医療衛生学部長（理事）もこれに強く同調し、渋谷明隆病院担当常任理事、東原正明医学部長（理事）も同様な意向を示した。また、奥野善彦監事（弁護士）も正義の番人の立場を捨て去って真実の隠蔽に強い賛意を示して反論し、それらの結果正論は退けられてしまったのである。

この状況に対して、学内良識派理事、教職員を中心に、藤井、海野、赤星、北里、奥野各氏に対する不信が募り、外部機関に訴えてその力で虚偽を正し、真実に基づく対応を執るよう促していただきたいとの結論に達し、書面を提出することとなりました。

本学では、最近科研費補助金不正問題の隠蔽が社会から強く糾弾され、理事長以下執行部が頭を下げてその場をつくらったつもりになっていたが、真の反省と改革がなかったためこの隠蔽体質は全く改善されておらず、現在は前記五氏がその隠蔽体質の急先鋒となっていて、学内良識派からの響きを買っているものである。

こういった案件に不慣れであり、真意を正しくお伝えできたか心配な面がありますが、宜しくお取り扱いいただくようお願いいたします。

北里大学理事、教職員一同